

EMで海・河川の浄化

2010年7月19日 (海の日)

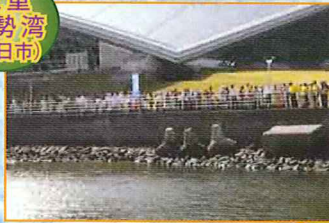
全国一斉EM団子・EM活性液投入

EMを活用しておられる皆様のおかげでEMは、
どんどん進化していろんな分野に活用されて
おります。このすばらしいEMをもっとも
多くの人たちに知っていただき活用して
いただくために全国一斉にEMを活用して
環境浄化を進めていきたいと考えています。

愛知
三河湾



三重
伊勢湾
(四日市)



鹿児島



岩手



東京
日本橋



期日：2010年7月19日 (月・祝) 海の日

実施要領

- ・内 容・・・河川、湖沼、海へ「EM団子」「EM活性液」を投入
- ・投入場所・・・個人や各グループが日頃実施している場所
- ・報 告・・・「グループ名(個人)」「EM団子・EM活性液の数量、場所」を事前にU-ネット事務局へ



EM・1®

EM™とは

EMとは、乳酸菌、酵母、光合成細菌を主体とし、安全で有用な微生物を共生させた多目的微生物資材です。
現在、EMを応用した様々な商品が製造・販売されていますが、基本になる微生物が全て共生している商品は、「EM・1」という黒褐色の液体製品になります。

Q. 水処理におけるEMの基本的な使い方や考え方を教えてください。悪臭緩和、汚泥やヘドロの減少、水質改善、藻の過剰繁殖に対してEMの施用方法を教えてください。

A. EMを水処理に活用することの基本的な考え方は、EMを投入することにより、水中及び汚泥の微生物相の改善、浄化関与生物の多様化や活性化を促進し、自然浄化力を高めることにあります。
具体的な施用資材としては、EM活性液、米のとぎ汁EM発酵液の投入、EM固形資材（EMボカシ／EM団子など）を、浄化対象の水中・ヘドロや流入源に施用します。
その結果、悪臭の緩和、ヘドロ・汚泥の分解、水質改善、藻の過剰繁殖の抑制、河川・海の生態系回復などの効果が期待できます。

EM団子の作り方

● 用意するもの (団子約 100 個分の目安)

- 土・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 kg
- EMぼかし（モミガラが入っていないもの） 3 kg
- EM活性液・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5 l
- EM-Xセラミックスパウダー・・・・・・ひとつかみ
- 糖蜜・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 適宜

ステップ1



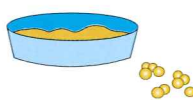
大きめの桶に土、EMぼかし、EM-Xセラミックスパウダー（発酵C）を入れて混ぜる。



使用する土のしめり具合に合わせて、EM活性液の量を調整しながら、少量ずつ加え、よくこねる。粘りが足りない場合は10倍に薄めた糖蜜を加えましょう。

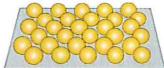
※糖蜜の入れすぎに注意

ステップ2



手のひらに適量とり、ハンバーグを作る要領で空気を抜きながら、テニスボール程の大ききになるよう強く丸めます。

ステップ3



できた団子をトレイに並べます。ぬれた新聞紙かビニールで上下をカバーして、まず1週間熟成・発酵させましょう。（陰干しがよい）



十分に発酵させた後、天日で十分乾燥させましょう。白い菌糸で覆われたら出来上がりです。

EM団子の効果



EM団子

EMを、泥や土と一緒に練り込み、団子状にして、発酵・乾燥させたものがEM団子です。ヘドロのたまった川・海・湖沼・干潟などに投げ入れることにより、EMの定着を促します。その結果、ヘドロが徐々に分解し元の生態系が甦ってきます。その効果が現れ始めるのは目安として約3～6ヵ月後です。



パートナーシップ事業



COP10
AICHI-NAGOYA

主催／NPO 地球環境・共生ネットワーク（通称：U-ネット）

東京都港区芝 2-6-3 三宅ビル 4F
TEL 03-5427-2348 FAX 03-5427-5890

協賛／(株)EM研究機構 (株)EM生活

「NPO法人 地球環境・共生ネットワーク」は、地球レベルの環境問題を解決するために、奉仕の精神に基づき広く具体的に行動し、社会に寄与することを目的として活動するNPOです。

* U-ネットは生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に出展します

お問合せは